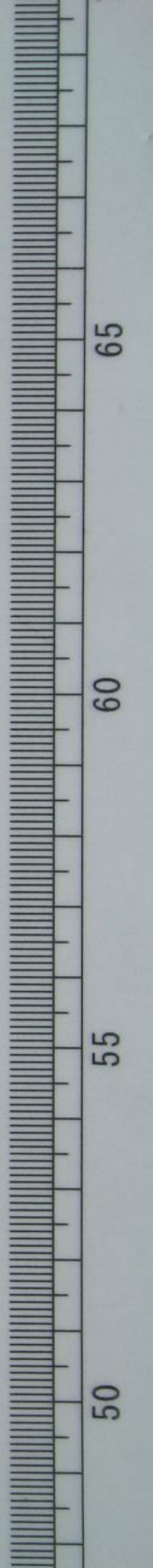


D  
~~1055~~

そのうらゝゝ  
其寫繪  
かぶきのおもかげ  
戲倂  
式亭三馬作  
歌川豊國画

逍遙文庫  
文庫6  
989



一對男時花歌川

天生德兵衛物語

朝茶湯一寸口切

今昔小町譚

却說浮世之助話

松縁高砂話

先讀三國小女郎

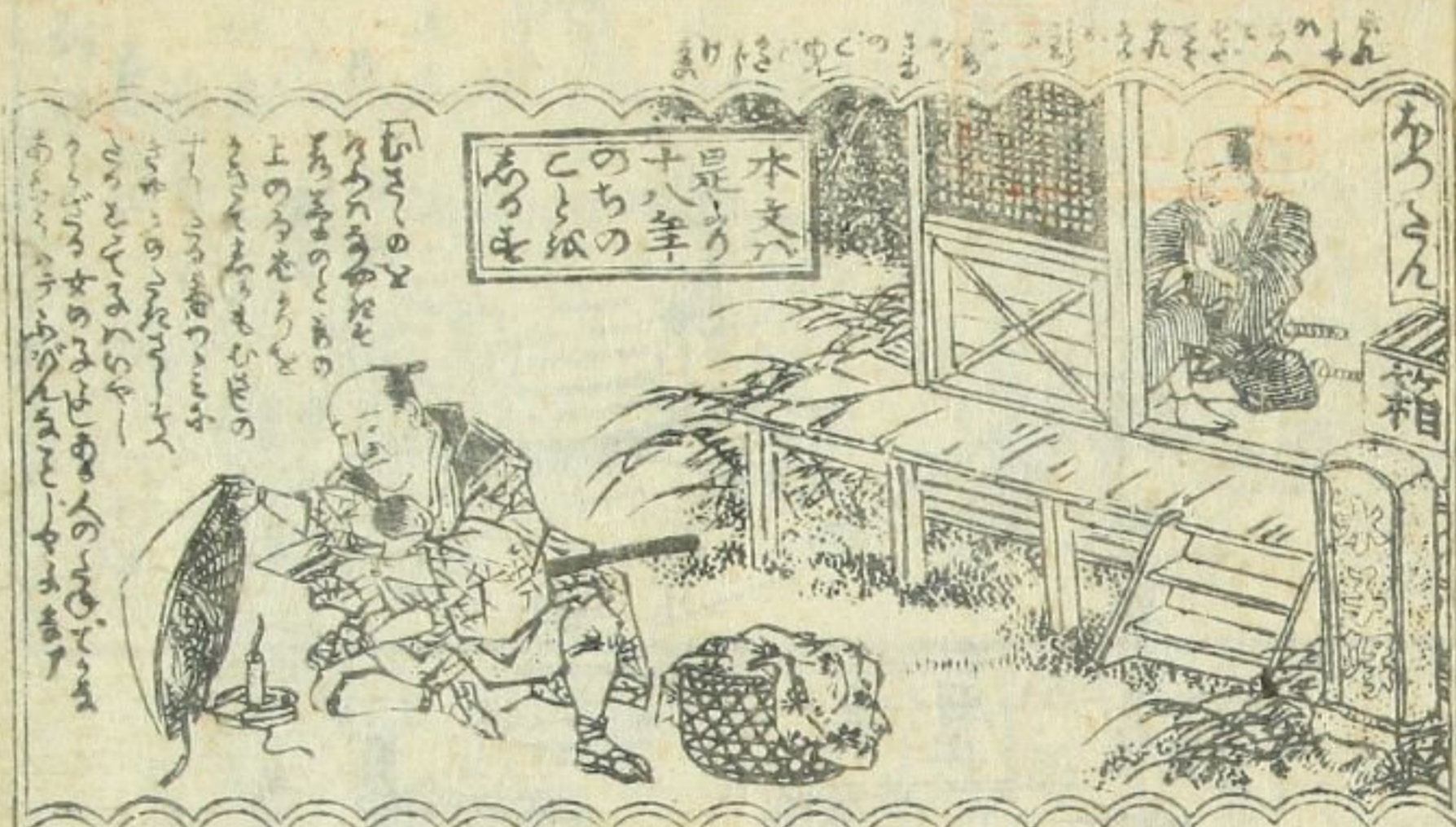
其寫繪戲傳

昔語丹前風呂

戀女房雙言討双六

濱真砂石川草紙

躑草娘庭訓



專用佳緋  
精互刷印  
不破不落

三馬作



馬馬

地本並常盤津本問屋

江戸小舟町二丁目  
のや勘右衛門板

馬馬

請取らるや這撰史條々戲場れんくはうふていひ  
清國行の忠義の魏徳再ひ嘆傾城の傳名氏  
流と宮川の昔風今に垣衣賣かかえん引掛枕  
其身川乃隨落坊主法界格氣の角監不影と  
客と桑の并枝の糸名と苦の娘百合乃野分れ  
荒蕪堂淡草野辺の孤家小戀ひ夜生隅田川  
あふも任り都鳥いごころいあまわりの京  
建えし鐘の響の因縁物語

應發客需  
翻案傳奇





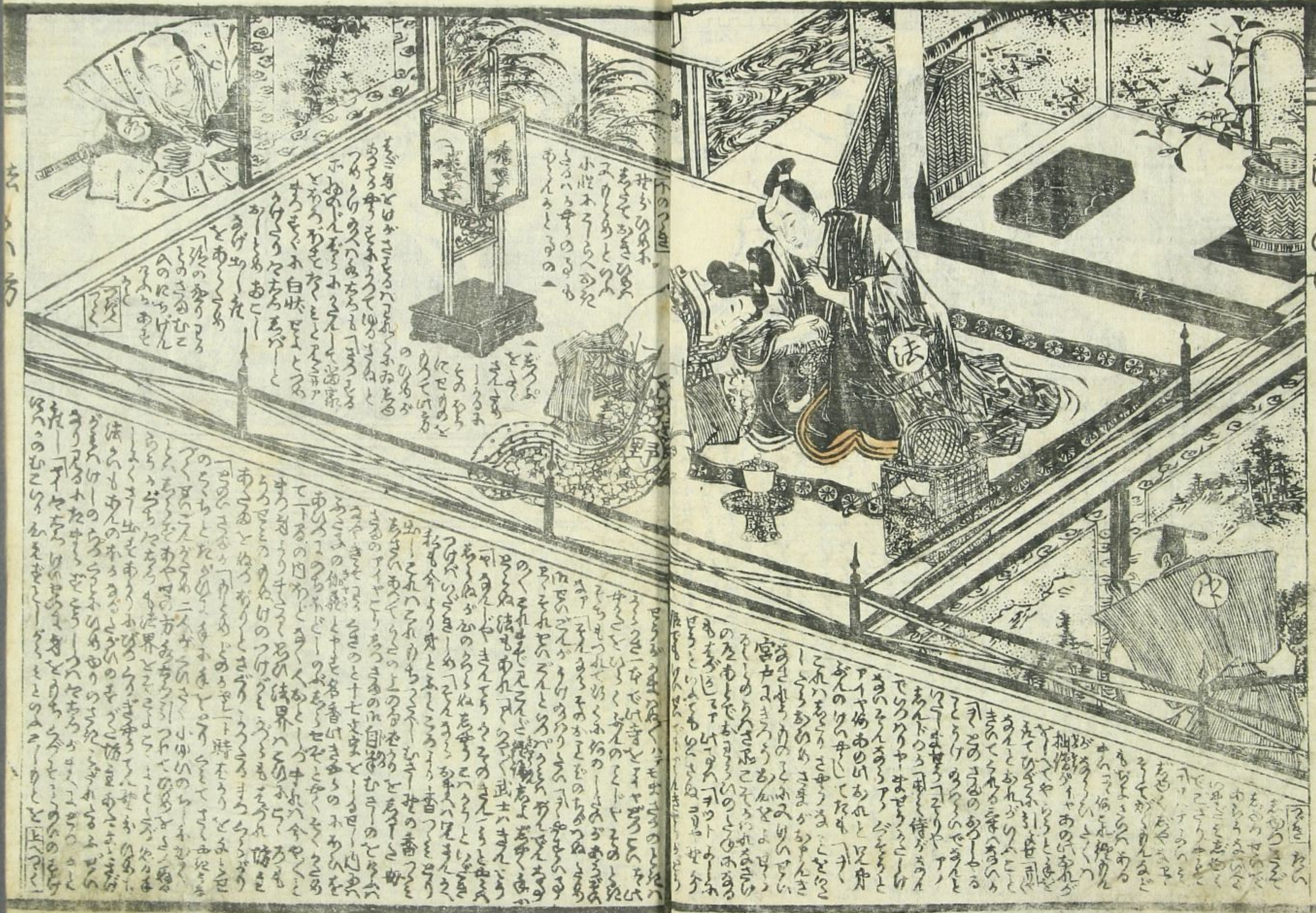












きりぎりす

下のついで  
 せいのめい  
 あらためて  
 又りくるとり  
 小腰をうらへぬ  
 まるはちのむも  
 むんまるとの

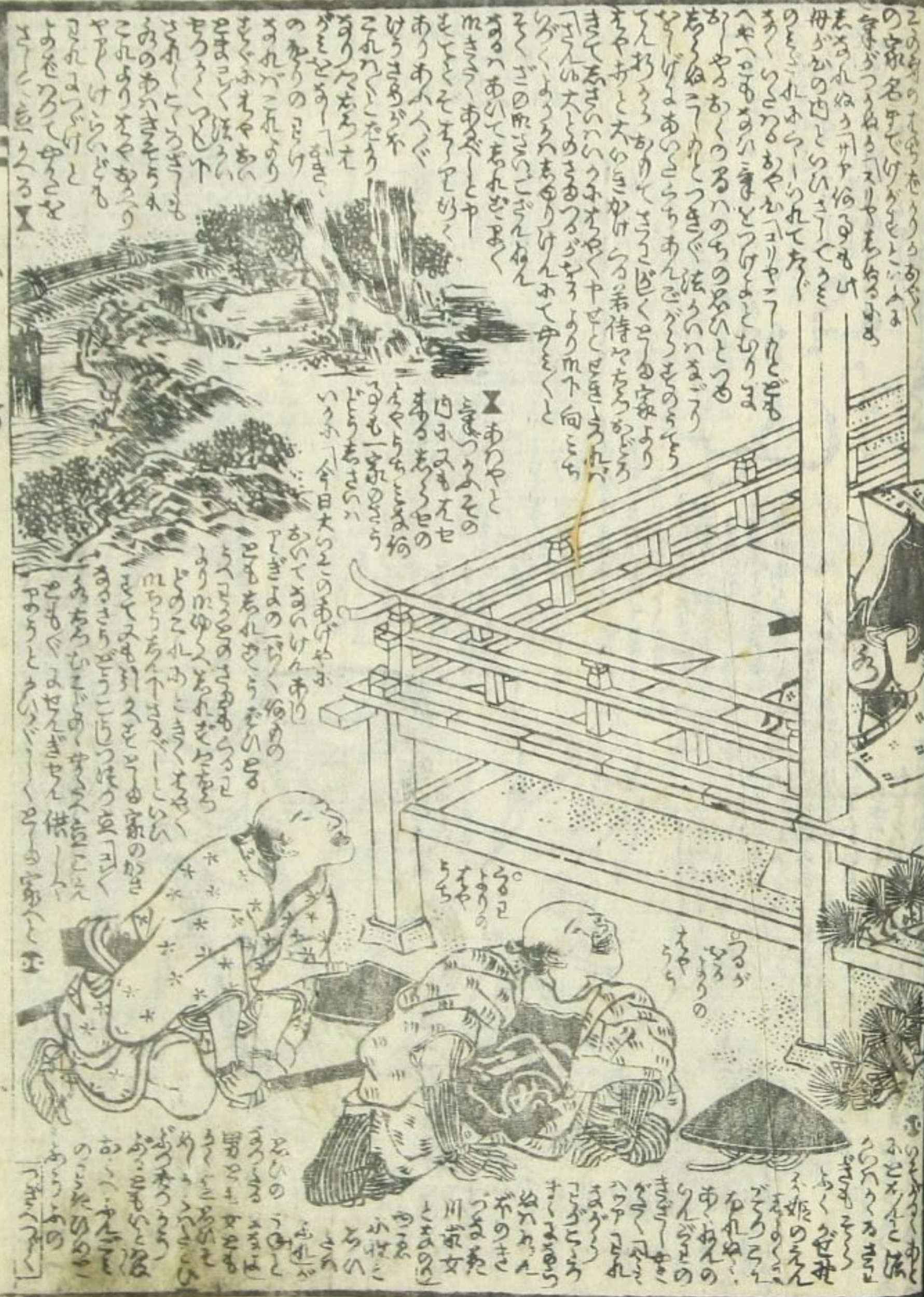
まるはちのむも  
 あらためて  
 つめりくるとり  
 小腰をうらへぬ  
 まるはちのむも  
 むんまるとの

まるはちのむも  
 あらためて  
 つめりくるとり  
 小腰をうらへぬ  
 まるはちのむも  
 むんまるとの

「このまゝに  
 のちとちと  
 つかうて  
 まるはちのむも  
 あらためて  
 つめりくるとり  
 小腰をうらへぬ  
 まるはちのむも  
 むんまるとの

ちのむも  
 あらためて  
 つめりくるとり  
 小腰をうらへぬ  
 まるはちのむも  
 むんまるとの





三之卷

Handwritten text in the upper left section of the left page, including the characters '三之卷'.



Handwritten text in the lower left section of the left page, surrounding the illustrations.

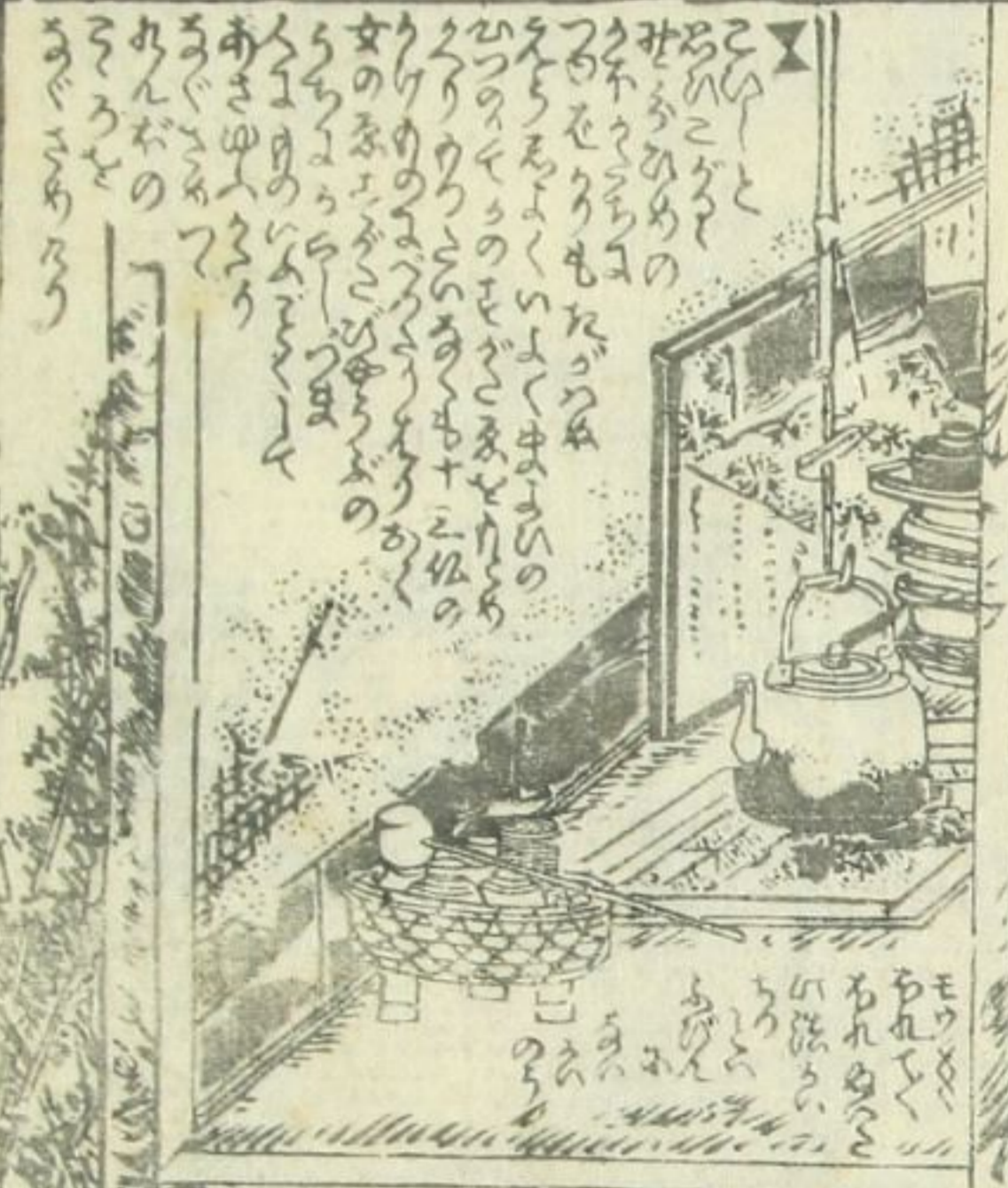


Handwritten text in the upper right section of the right page.



Handwritten text in the lower right section of the right page, surrounding the illustration.





こゝろと  
かみかみめ  
つをうらもたか  
えうらもたか  
ひつうのまが  
くりのまが  
女のまが  
うらうら  
あき  
れんがの  
ろろと



あき  
れんがの  
ろろと  
あき  
れんがの  
ろろと



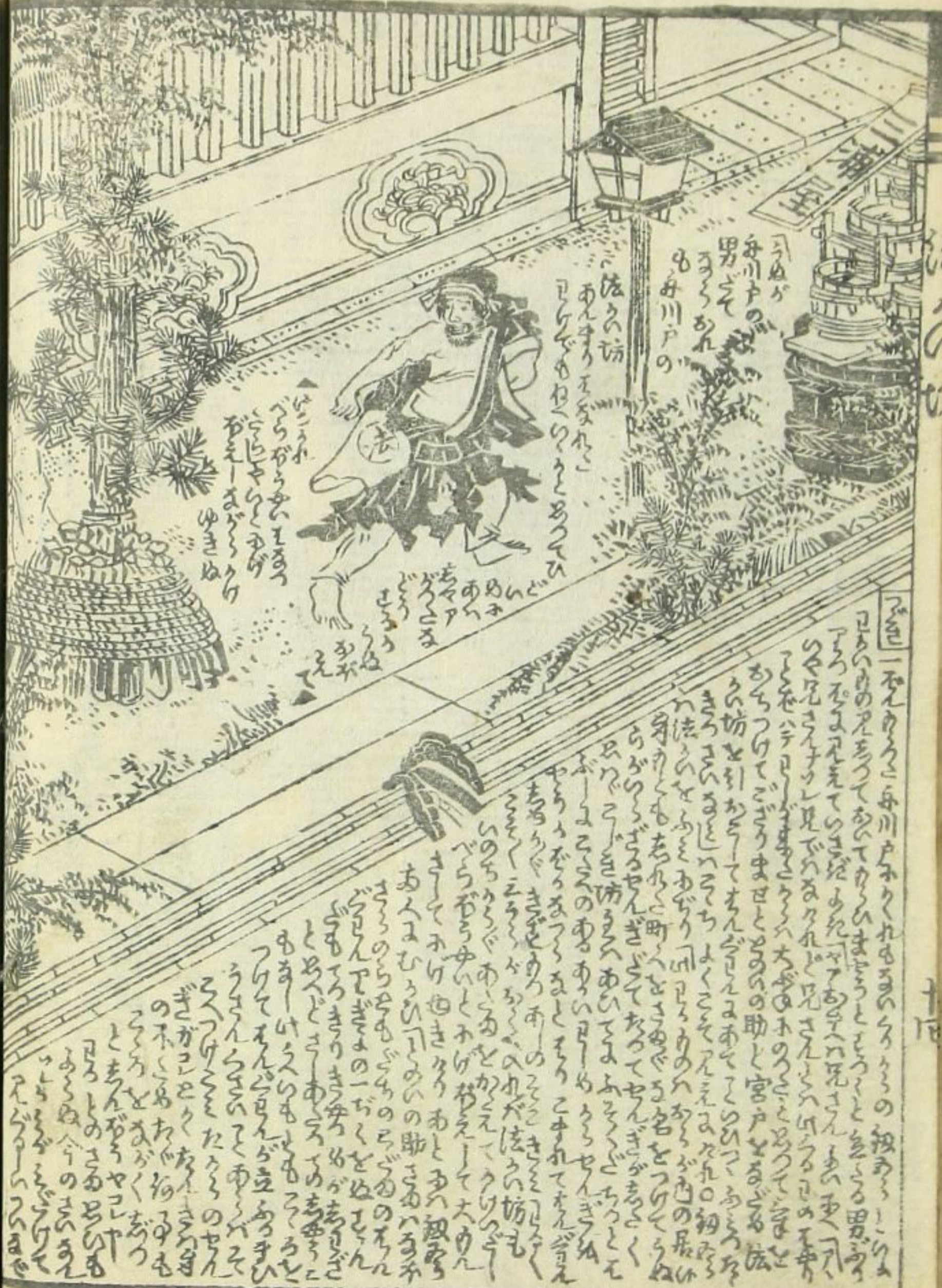
あき  
れんがの  
ろろと  
あき  
れんがの  
ろろと

あき  
れんがの  
ろろと  
あき  
れんがの  
ろろと  
あき  
れんがの  
ろろと  
あき  
れんがの  
ろろと

あき  
れんがの  
ろろと  
あき  
れんがの  
ろろと  
あき  
れんがの  
ろろと  
あき  
れんがの  
ろろと





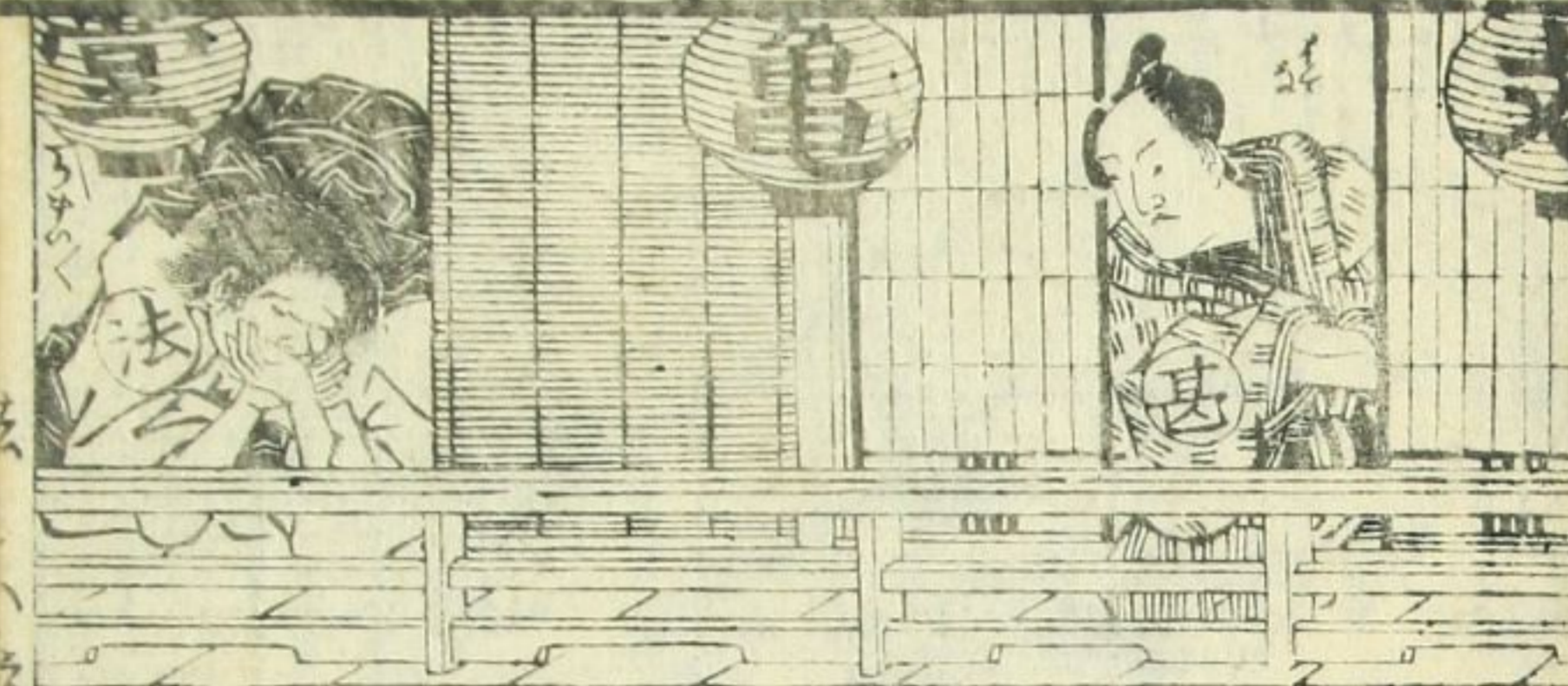


この世の世は...  
...  
...  
...  
...

この世の世は...  
...  
...  
...  
...



四之卷



Vertical text columns on the left side of the page, likely a preface or introductory text.



Small text at the bottom left of the page, possibly a signature or a note.

Vertical text columns on the right side of the page, continuing the narrative or commentary.



Small text at the bottom right of the page, possibly a signature or a note.

のうのい  
のうのい  
のうのい  
のうのい  
のうのい

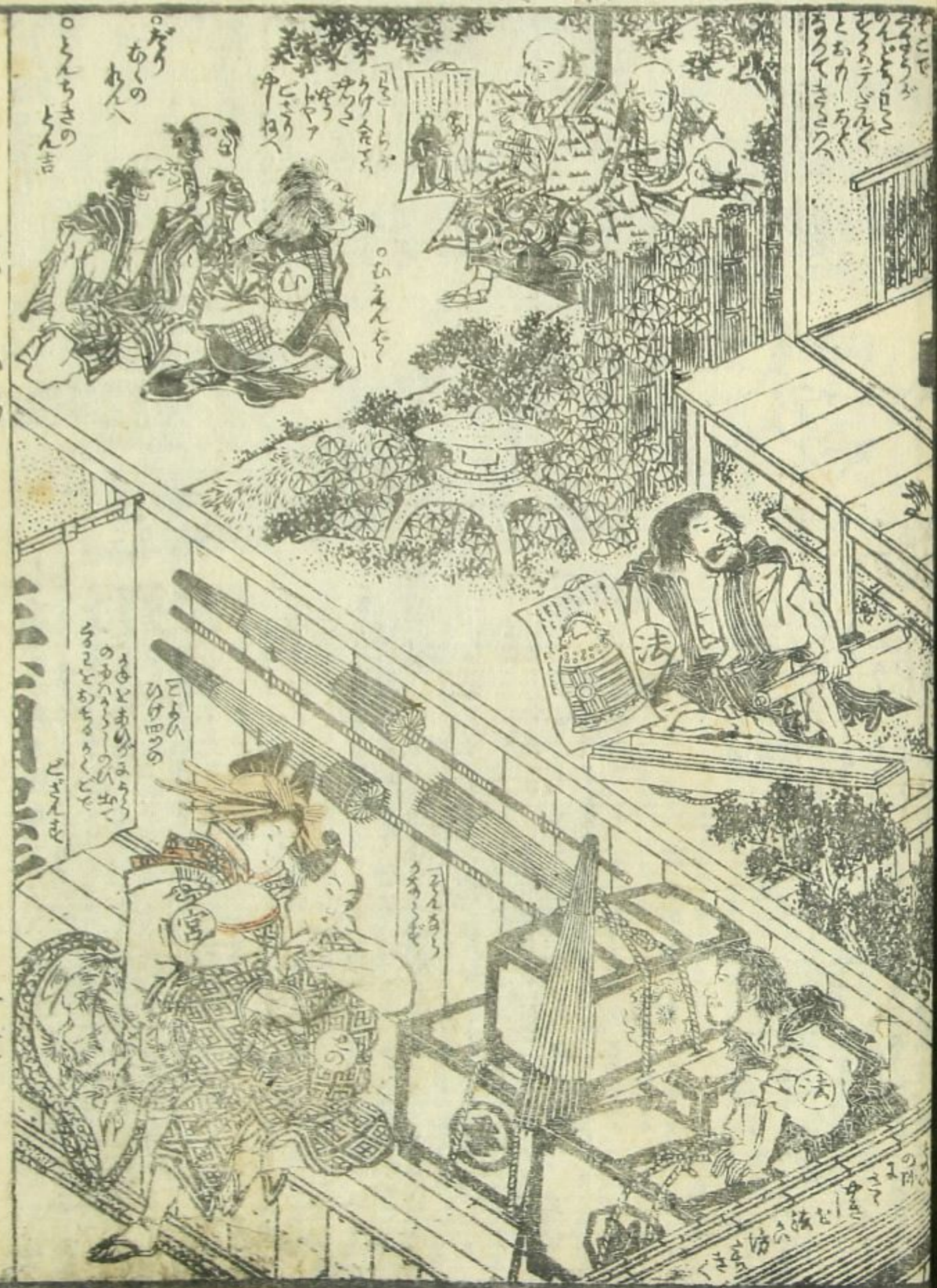


図 ちりごととえとろる







あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ



あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ

あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ



あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ



あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ  
あつてよめんとてうさぎ

開試合んだまの所

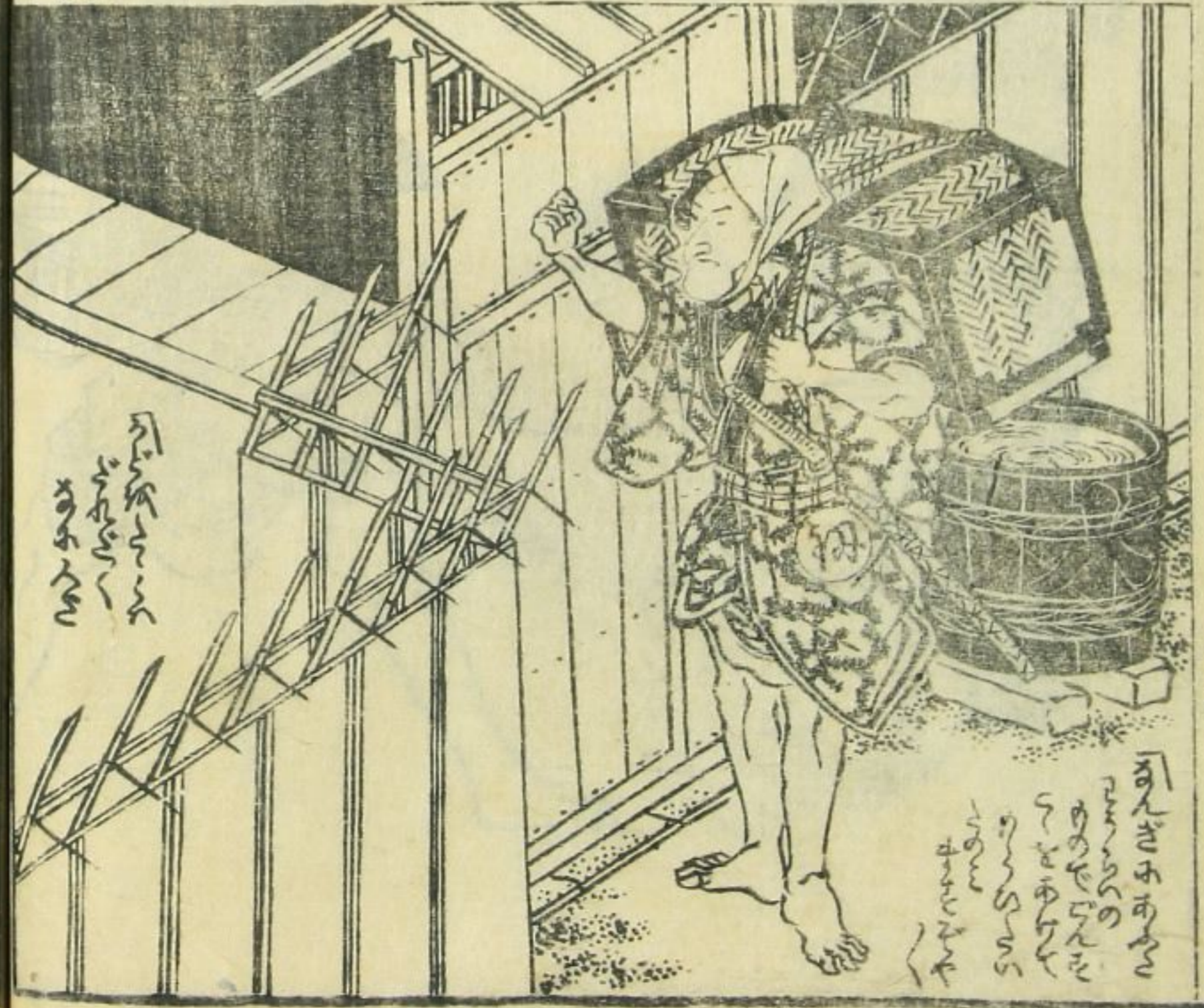
ふたあぐとの金の争ひをさうあやめも  
どうぞりきこつておるややまといふて  
ありのどきひめを戸さまの内かきまひ  
あきなるかこいすんまとうをいふ也  
てまののちりくゆらんふりてふるこ  
不せすさんとののゆせともまひて  
のこつていふさあふらりせんゆりて  
あしてのこつていふのゆせともまひ  
戸さまの内かきまひてあんとあひの  
火をてしていちどひさきえんまの  
たぐりかのとれあんの木かきつりて  
らんまんのまうあてありけりまひえ  
ぢうたうゆりのとらひのあつてこれ  
まののちりくゆらんまをさていひせめ  
とさるゝあられりるそらあをい  
さん移んやと  
こふしな  
あさうて



ひまを  
あつて  
こふしな  
あさうて

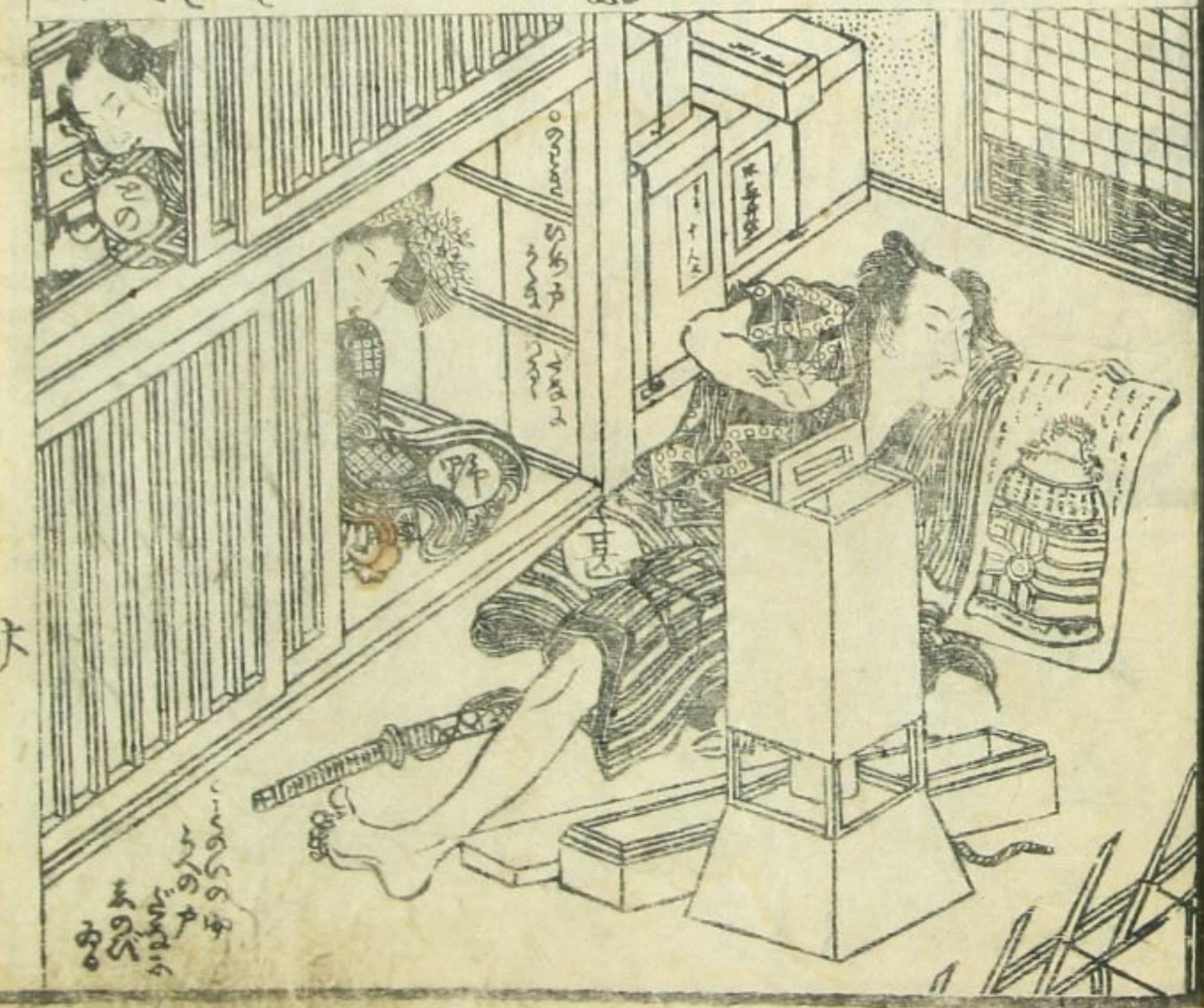


ひまを  
あつて  
こふしな  
あさうて



ひまを  
あつて  
こふしな  
あさうて

ひまを  
あつて  
こふしな  
あさうて



ひまを  
あつて  
こふしな  
あさうて

五之巻



あつてはくそちがなせむ  
らんのまららうの  
ぶいあわしをこれぞ  
ゆんといの  
けらひ  
わらう  
わらう  
そのま  
あつてはくそちがなせむ  
らんのまららうの  
ぶいあわしをこれぞ  
ゆんといの  
けらひ  
わらう  
わらう  
そのま



あつてはくそちがなせむ  
らんのまららうの  
ぶいあわしをこれぞ  
ゆんといの  
けらひ  
わらう  
わらう  
そのま



あつてはくそちがなせむ  
らんのまららうの  
ぶいあわしをこれぞ  
ゆんといの  
けらひ  
わらう  
わらう  
そのま











六之卷



こののゆい... 六之卷... 母よみて...

あつちか... ちりし... ちりし... ちりし...

あつちか... ちりし... ちりし... ちりし...

あつちか... ちりし... ちりし... ちりし... ちりし... ちりし... ちりし... ちりし...



あつちか... ちりし... ちりし... ちりし... ちりし...

あつちか... ちりし... ちりし... ちりし... ちりし...

あつちか... ちりし... ちりし... ちりし... ちりし...

あつちか... ちりし... ちりし... ちりし... ちりし... ちりし... ちりし... ちりし...







去つた方



あつちの  
 女とて  
 あつちの  
 女とて  
 あつちの  
 女とて

あつちの  
 女とて  
 あつちの  
 女とて  
 あつちの  
 女とて

宿直之助 野分姫夫の責の  
 踊子ふさおをうて児玉判官  
 館小至る



あつちの  
 女とて  
 あつちの  
 女とて  
 あつちの  
 女とて

あつちの  
 女とて  
 あつちの  
 女とて  
 あつちの  
 女とて

あつちの  
 女とて  
 あつちの  
 女とて  
 あつちの  
 女とて

七之卷



Vertical Japanese text columns on the top right page, likely a continuation of the story or commentary.

Vertical Japanese text columns on the bottom right page, continuing the narrative or providing further details.







さても大坂の  
 あんくまでふん  
 ぶりのまきよの  
 一ぢくふらび  
 もよりじあ  
 よろよりさぶ  
 うさうさつひあ  
 せんがせんがらひ  
 ちつてあのおさ  
 ちんいーさ  
 ぞんとあげさ  
 かわらさや  
 武成さうめさ  
 ひさの國  
 きあ入るの  
 あきぬのちつ  
 ぬりあびく  
 らんれん代の  
 うんやまゆの  
 がえんりくね  
 君ぶみ代りく代  
 つさせぬら  
 こそめでこれ



法之坊  
 まかぢおん  
 せんぜおん  
 せんざうあま  
 せんざうあま

せんざうあま  
 せんざうあま  
 せんざうあま

らんざま

せんざうあま

水

野

水

水



離工小泉新即刀



(一) 舟にまてあはしうも舟にぬ  
 二ツりかどんやあゆみのよま  
 あだてきしひの白又あま  
 のれつあまのこまやうてあま  
 ありそふあまやうあまの  
 ありてあまのこまやうあま  
 二のあまのこまやうあま  
 十川よりあまのこまやうあま  
 百のあまのこまやうあま  
 舟にまてあはしうも舟にぬ  
 あだてきしひの白又あま  
 のれつあまのこまやうてあま  
 ありそふあまやうあまの  
 ありてあまのこまやうあま  
 二のあまのこまやうあま  
 十川よりあまのこまやうあま  
 百のあまのこまやうあま

例の  
 三馬  
 つつ  
 ちん  
 ちん  
 ちん

式亭三馬編



吉例  
春興

赤本の

まの  
まの  
まの  
まの  
まの

歌川豊国画

北雲漫画初編

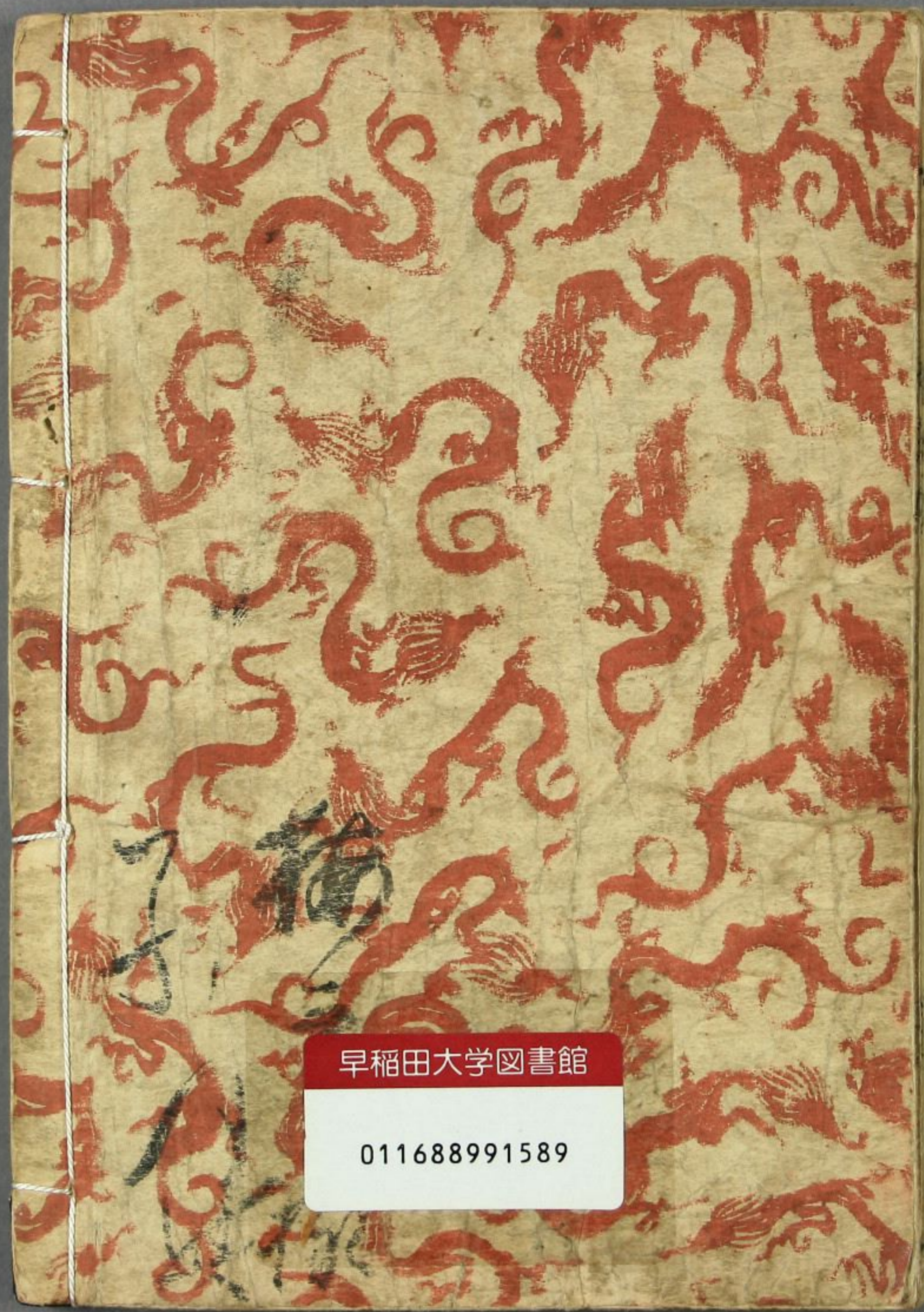
全一冊

北雲子ハその師小糸翁の骨肉を以て風情別な執阿のそ  
あはれに之をく庵有まありて人懐をよく慕ふ画にまありてその  
風流もまも遠くよりと考へありて画は狂と云くみんふりたる  
してまあおまよき物エを心よりちて系師の風と東社の風情  
中をさうりしかられりかゝる味ハ筆をとりてまあお者の上  
あはれ心付ごとく只か風を以て時ハ世帯普通画臨奉との世の人  
の思ひ得らん情一き筆をせばそのまもあつて一冊ハ二冊ハ草  
花の形を多く出され花の形容繁乃理紋なまはく多り易き  
やう画がこれまあお自互の筆力比はたかなきもの形

狂画神事あんぞ

全一冊

狂画神事あんぞの形まかけ或ハ社内中よりまあ  
掛流燈おごてんのエをまあおとまあおや彼川柳意の和句作人懐  
唯俗眼より及あまを要し一筆子成りてこそ子を釋らる



早稲田大学図書館

011688991589